

## 送辞

例年に増して厳しかった冬の寒さも和らぎ、教室の窓から降り注ぐ日差しにも、春の訪れを感じる季節となりました。春は、新たなスタートに期待をふくらませる季節である一方で、寂しい別れを乗り越えなければならない季節でもあります。

今日、この佳き日、上柴中学校を旅立たれる三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

この二年間、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、先輩方は自分の持てる力を余すところなく発揮されていたように思います。

例年と異なり、体育祭など行事のほとんどが学年別の実施となり、私たちは、先輩方が行事に臨まれる姿を直接目にする機会がありませんでした。しかし、日々の学校生活で活躍している先輩方の存在はとても大きいものでした。

部活動では、先輩方は、どんな時も、親切に、また熱く指導をしてくださいました。時には厳しく叱られることもありましたが、あたたかく見守り続けてくださったおかげで、私たちはここまで部活動を続けることができたのだと思っています。

活動の時間や環境が制限されることが多い中であっても、目標を高く掲げ、一切妥協せず、本番で全力を発揮できるよう、日々の活動に取り組む姿がありました。そして、最後の最後まで決してあきらめることなく戦い続ける姿は、今でもはっきりと目に焼き付いています。

委員会では、まだ右も左もわからない私たちに、ひとつひとつ丁寧に教えてくださいました。鋭いものの見方と考え方、そして卓越した行動力で、常に私たちを導いてくださいました。

輝く先輩方の背中を追い続けて、私たちも、先輩方のようにありたいと思いながら、ずっと努力を重ねてきました。先輩方といろいろなことを経験し、共に考え、様々な思いを共有したその時間は、間違いなく私たちの今に生きています。

義務教育を終え、新しい生活が始まると、環境も大きく変化し、多くの困難に直面するかもしれません。しかし、この上柴中学校で、先生方、後輩、そしてなにより、同級生と共に過ごした時間は、必ず自らの手で未来を切り拓くための力となることでしょう。

一組、「挑戦」。そのスローガンと真っ赤な学級旗からは、勇気をもって、常に前に進もうとするその心構え、勢いが伝わってくるようでした。

二組、「全力全笑」。教室の掲示物などの端々から、スローガンのとおり、明るさとあたたかさが感じられました。常に全力で、常に笑顔の絶

えないクラスであったのだろうということがうかがえました。

三組、「完全燃焼」。教室の後ろには、毎日ひと言のコメントとともに、写真が貼られていました。今日の卒業式へ向けて、一年間、歩んでこられた一日一日の重みが伝わってきました。

四組、「ラストスパート」。クラスカラーのピンクで統一された教室は、やさしい色合いに包まれ、終始和やかな雰囲気にも包まれていたのだろうと感じました。

五組、「百折不撓」。何度挫折しても、決してくじけないクラスのその絆と統一感。それを強く感じさせる雰囲気が、隅々まできれいに整頓された教室に満ちていました。

放課後、誰もいないその空間に、そこに立っているだけで、昼間の、活気にあふれる様子が鮮明に浮かんできました。

今日、先輩方は、三年間にわたる中学校生活のゴールを迎え、次の舞台へと踏み出す新たなスタートラインに立ちます。先輩方が輝かしい未来へと旅立たれる大きな節目であるこの日、私たちも大きなものを受け継ぎました。それは、上柴中学校の伝統と上中生としての誇りです。

先輩方と私たちが共に紡いできた日々は、上柴中学校の歴史の一ページを刻むものであり、上柴中学校の歩みそのものでもあります。それは、先輩方の努力の結晶であり、時には苦しい思いをしながら、築き上げてこられたものです。

先輩方は、それらを礎にさらに上を目指して歩み続けてください。そして、私たちは、先輩方から学ばせていただいたことのすべてを、これから活かしていきます。

先輩、本当にお世話になりました。ありがとうございました。今は、その気持ちでいっぱいです。

先輩方と過ごすことができたのは、二年間という限られた時間でしたが、私たちにとってかけがえのないものでした。先輩方は私たちの憧れでした。

そんな先輩方の存在が当たり前であった日々が、今、終わりを迎えようとしています。先輩方とお別れするのは名残惜しいですが、私たちが立ち止まっているわけにはいきません。先輩方から託された思いを、必ず未来へとつないでいきます。

先輩方も、自らの未来への道を、自分らしく歩いていってください。

最後に、皆様方の今後のご健康と、さらなるご活躍をお祈り申し上げ、送辞といたします。